

## 開催校案内

# 立教大学

アメリカ聖公会の宣教師、チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教が日本に渡ってきたのは、まだキリスト教の布教が禁じられていた1859年のことです。偉大な志を持って伝道に従事したウィリアムズ主教は1874年、東京築地の外国人居留地に英学と聖書を教える私塾を開きました。わずか数人の生徒で始まったこの小さな学校は「立教学校」と呼ばれました。これが現在の立教大学の始まりです。1907年、専門学校令により、「立教大学」(英語名セントポールズカレッジ)として文部大臣から設立の許可を受け、文科、商科および予科が置かれました。すべて原書による宣教師たちの授業は人気を呼び、学生数も増加していきました。



立教大学が、池袋に移転したのは1918年9月11日のことです。翌年5月31日、本館、礼拝堂、図書館、食堂、寄宿舍の落成式が盛大に行われました。当時のライフスナイダー総理は「本校の教育は元来3つの要点に着目している。即ち体育、智育、霊育である。…されど本校教育の眼目点は霊育にある」として、キリスト教の信仰に裏付けられた全人教育を促しています。これは智育偏重を戒め、知性、感性、そして身体のバランスのとれた本当の意味での教育を意味し、そこには人を愛することや、人の痛みを分かち合える豊かな感受性を育む姿勢が表れています。このような教育者達に導かれ、立教は広い視野と将来への展望を培い、総合的な判断力を養成する、いわゆる”リベラル・アーツ”の学校としてその地位をゆるぎないものにしました。

“自由の学府”とも呼ばれる立教大学。自由とは、無秩序や、恣意的なものではありません。教育理念としての自由とは、人間をある一定の型に当てはめるのではなく、それぞれの人が生まれながらに与えられた資質を育み、それが伸び伸びと開花できるよう、できるかぎりの援助を惜しまないというものです。高度な学問を修めるということは、それだけ知識の照らす視野が広がり、制限から解放されるということで新しい何かを創造するには不可欠な条件です。現象にとらわれず、常にその本質に迫ろうとする自由の精神こそが立教の精神といえます。